

[阿蘇の「涼」を求め「日本の文化」を巡る](#)

ONE DAY TOUR

旅 の ガ イ ド

2025.9.7 (日)

菊陽多文化クラブ

目 次

1	ツアーの概要	1
2	スケジュール	2
3	観光地ガイド	3
	馬場楠 (菊陽町)	
(1)	馬場楠井手の鼻ぐり	3
	高森 (高森町)	
(1)	高森湧水トンネル公園	4
(2)	高森殿の杉	5
	波野 (阿蘇市)	
(1)	神楽苑 (道の駅なみの)	6
	中江岩戸神楽について	6
(2)	中江神楽殿	7
	産山 (産山村)	
(1)	池山水源	7
4	コースマップ	8
5	メ モ	8

1 ツアーの概要

このツアーは阿蘇の東部および北部におけるパワースポットを中心に涼を求めて日本の文化に触れあう日帰りツアーです。

鼻ぐり井手公園に8時40分前に集合し、出発は8時50分とし、最初に近くの馬場楠井手の鼻ぐりに立ち寄ります。駐車場から徒歩でも約5分程度で着きます。この鼻ぐり井手ではボランティアガイドによる説明があります。

その後は、9時半に鼻ぐり井手公園を出発して、阿蘇郡高森町に移動し、次に立ち寄るスポットは高森湧水トンネル公園です。ここはトンネル内に整備された公園で、真夏でも16℃前後で、別世界の涼を感じることができます。駐車場から公園入口までは平坦道で2～3分程度です。

その後はパワースポットになっています高森殿の杉に寄ります。駐車場でバスを降りてから10分程度、山道を歩いて登ります。

杉の近くは滑りますので雨天の時は注意してください。

次は阿蘇外輪山を超えて阿蘇市波野地区に移動して、道の駅でもある神楽苑で昼食とします。駐車場は神楽苑に併設しています。ここには全国の神楽を紹介する神楽館がありますが現在は閉館中です。神楽苑出発予定は13時です。

午後は中江神楽殿に移動して、この地方で引き継がれている中江岩戸神楽の公演を13時30分から40分程度鑑賞します。公演は第一日曜日のみです。駐車場は神楽殿に併設しています。

その後は阿蘇郡産山村に移動し、涼を求めて池山水源に寄ります。ここは公園化されており、駐車場から水源地までは園内の平坦地を5分程度歩きます。

この水源は一部飲用水として利用されているため、手足や物を水源に付けることは禁止されています。

池山水源を最後に帰路につきます。途中、道の駅あそで短時間トイレ休憩をして、鼻ぐり井手公園には17時頃に到着する予定です。

2 スケジュール

実施日 2025年9月7日（日）

集合場所 鼻ぐり井手公園駐車場
所在地 熊本県菊池郡菊陽町曲手436-1

集合時間 午前8時40分

コース

鼻ぐり井手公園	8:40 (集合)
↓ (打ち合わせ)	
馬場楠井手の鼻ぐり	徒歩出発 (8:50) 移動 (5分)
↓ (ボランティアガイドによる説明)	バス出発 (9:30) 移動 (50分)
高森湧水トンネル公園	(9:55 ~ 9:25) (30分)
↓	(10:20 ~ 11:10) (50分)
高森殿の杉	バス出発 (11:10) 移動 (10分)
↓	(11:20 ~ 11:50) (30分)
神楽苑（道の駅なみの）	バス出発 (11:50) 移動 (30分)
↓ (昼食、休憩)	(12:20 ~ 13:00) (40分)
中江神楽殿	バス出発 (13:00) 移動 (20分)
↓ 神楽鑑賞	(13:20 ~ 14:20) (60分)
池山水源	(13:30 ~ 14:10) (40分)
↓	バス出発 (14:20) 移動 (40分)
道の駅 あそ	(15:00 ~ 15:30) (30分)
↓ (休憩・ショッピング)	バス出発 (15:30) 移動 (30分)
鼻ぐり井手公園	(16:00 ~ 16:15) (15分)
	バス出発 (16:15) 移動 (45分)
	17:00 (到着)

（道路事情で予定どおりに運行できない場合があります。）

3 観光地ガイド

● 馬場楠（ばばぐす）（菊陽町）

(1) 馬場楠井手の鼻ぐり（ばばぐすいでのはなぐり）

馬場楠井手は、菊陽町の馬場楠を源に発し、曲手、辛川から熊本市の上南部を経て大江渡鹿に至る、全長約13kmの人工の用水路です。この用水路にいくつかの堰（せき/川の流れを止めて脇に一部を流す施設）を作り、白川の水を周辺の水田に分流するという事業は、慶長13年（1608）に加藤清正によって設置され、今日においても私たちの食料を生み出す生産基盤として400年間も生き続けて活用されている施設です。



鼻ぐり井手

その中でも鼻ぐり井手の構造は、全国的にも世界的にもめずらしい農業用水施設で、阿蘇方面から流れてくる土砂が堆積することなく白川沿いの託麻、益城、合志の3地区の田に水を引くことができるようになっています。

「井手」とは人工の用水路のこと、「鼻ぐり」とは牛の鼻輪の穴に似ている構造になっていることから「鼻ぐり井手」と呼ばれています。

特殊な構造である「鼻ぐり構造」とは、堅い岩盤を掘り込んで井手をつくる時に、すべての岩を取り除くのではなく、一部を壁のように「仕切り」として残しておき、その壁の下に半円形の高さ約2メートルの穴を繰り抜いたものです。

白川の流域では阿蘇の火山灰による土砂が多く、岸が高いところでは、さらえても土砂は捨てることができません。そこで鼻ぐり（地下の穴）を80箇所作ることにより、水は狭いところを流れ、上の広いところに水を貯えるようにすると、川底の水は激流となり、土砂がかき回され、川下に流れるという原理です。

● 高森（たかもり）（高森町）

(1) 高森湧水トンネル公園（たかもりゆうすいとんねるこうえん）

高森湧水トンネルは、當時、毎分 36 トンの豊富な湧水量があり、高森町の貴重な水源地となっています。

明治 29 年（1896 年）に熊本～延岡の鉄道敷設構想が持ち上がり、昭和 48 年（1973 年）には高森・高千穂間（全長 6480m）の工事が始まりました。



湧水トンネル公園入口

しかし、1975（昭和 50）年 2 月に入口から約 2km の坑内で突然大量の水が噴出すると同時に、町にある湧水 8 か所が枯れてしましました。以後も度重なる出水事故が発生し、2055m 掘った時点で工事は中断し、1980（昭和 55）年に高森トンネル工事も中止され、高森・高千穂間の工事計画自体が廃止されました。

現在は、トンネル周辺一帯を親水公園として開放し、全長約 2km のトンネルのうち、約 550m を一般公開しています。

水の大切さや地球環境の問題、高森トンネルの歴史について学べる水の資料館「湧水館」と共に、高森町の観光スポットの一つとなっています。

トンネル内の温度は年間を通して 17°C となっており、夏は涼しく冬は暖かいのが特徴です。また、一番奥には特殊ストロボを利用して水が真珠のように見えるウォーターパールという光のイリュージョンを楽しむことができます。

トンネル内では年 7 月は「七夕まつり」、11 月中旬～12 月は「クリスマスファンタジー」が開催され、トンネル内が華やかに彩られます。



ウォーターパール

(2) 高森殿の杉(たかもりどんのすぎ)

南外輪山の中腹、九州自然歩道沿いにある、樹齢 400 年を超える一対の巨大な杉。寄りそうようにそびえ立つ雄株と雌株は、その姿から夫婦杉と呼ばれています。幹周りは何と 10m 以上もあり、圧倒的な存在感を放ち、近年、縁結びのご利益があるといわれ注目されています。



高森殿の杉

「高森殿」とは、戦国時代に高森一帯を治めていた高森城主高森伊予守惟居（たかもりいよのかみこれおり）のことです。天正 14 年（1586 年）、薩摩島津軍との激戦の末、家老の三森兵庫能因とともにこの杉の下で自刃したことからこの名称がついています。

杉の樹齢は推定 400 年～1000 年と不明ですが、伊予守が自刃した場所柄を考えると当時すでに大木であったことが想像されます。

元々はここが伊予守らの墓所でしたが、寛永 6 年（1629 年）に家臣の武田氏によって含藏禪寺に移されました。現在、杉の下にあるものは三森兵庫の供養塔です。

また、この地を訪れた有名女優が雄杉と雌杉に見立てた 2 本の杉に抱きついてパワーをもらったところ、すぐさま結婚が決まったとの逸話でも知られています。近年では縁結びのスポットとして一躍有名に。県内外問わず、多くの人が訪れるパワースポットになっています。

● 波野（なみの）（阿蘇市）

(1) 神楽苑（かぐらえん）（道の駅なみの）

神楽苑は国道 57 号線沿いにある、波野神楽のインフォメーションセンターにもなっている道の駅です。

神楽を観賞し、風味豊かなそばや、そば粉を使ったソフトクリームなどが頂け



神楽苑

るとあり、毎日多くの観光客で賑っています。また、敷地内には全国の神楽を紹介する神楽館や、採れたての高原野菜や季節の山菜などを産地直送価格で販売する特産品販売所も併設して波野産そば 100% を使った手打ち体験もできます。お食事処の「岩戸開」では本格的なそばをいただくこともでき、ここで昼食とします。

中江岩戸神楽（なかえいわとかぐら）について

中江岩戸神楽は、今から約 240 年前の江戸時代の明和年間、大分の御嶽神社に伝わる神楽をベースに阿蘇市波野中江地区に伝わる神楽で、現在、国指定の無形民俗文化財及び県重要無形民俗文化財になっており、出張公演も行われています。

「子どもたちを育てないと、神楽殿は残っても神楽を絶やしてしまうことになりかねない」と強い危機感が背景にあり、担い手の育成にとりかかりました。そして約 30 年前、中江岩戸神楽保存会（佐藤義勝会長）を発足させ、宮神楽、里神楽、宮中雅楽や久米舞いを取り入れ 33 座に構成した神楽を郷土芸能として伝承しています。



中江岩戸神楽

毎年 4 月から 11 月（10 月を除く）の毎月第 1 日曜日に、中江神楽殿で定期公演が行われています。

(2) 中江神楽殿 (なかえかぐらでん)

中江神楽殿は、中江岩戸神楽保存会の方の練習や定期的な公演の会場となっています。

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、定期公演が制限されてましたが、今年は4月の定期公演から披露することが出来ました。

神楽には楽譜や資料はなく、一つ一つの舞は、先輩から後輩へ言葉と体で伝えられてきました。笛・カネ・太鼓の3つで音を奏で、舞手の呼吸と合わせることで一つ一つの演舞が決まります。太鼓の音に強弱をつけ、派手に打ち鳴らすときは、まるで神々の代弁をしているかのようです。

中江神楽定期公演は、33座ある舞の中から将来を担う候補生の小学生による「五方礼始（ごほうれいし）」から始まり、毎回5座が披露されます。



中江神楽殿



中江岩戸神楽

● 産山（うぶやま）（産山村）

(1) 池山水源（いけやますいげん）

池山水源は環境省の名水百選に選ばれた水源で、周りを樹齢200年を超える木々に囲まれており、雄大な景色が一番の魅力です。

水温は年間を通して13.5°C、毎分30トンという豊富な湧水量を誇り、満々とたたえた池の中央には水神様が祀っています。この湧水は玉来川となって大野川に流れ込み、遠く別府湾へと注いでいます。地元では古くから生活用水や農業用水として使われてきたほか、近年では飲料水の原水にもなっています。熊本のおいしい水の代表です。



池山水源

4 コースマップ



5 メモ



July 20th, 2025
Accela Support
All Rights Reserved.
<https://なんでもや.com>